

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学 校 名 東 京 都 市 大 学 等 々 力 中 学 校 ・ 高 等 学 校
(※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫 _____）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 1 5 8 - 0 0 8 2
東京都世田谷区等々力 8-10-1 _____

E-mail a.mita@tcu-todoroki.ed.jp _____

Website http://www.tcu-todoroki.ed.jp _____

幼児児童生徒数 男子 717 名 女子 565 名 合計 1282 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は「ノブレスオブリージュ（高潔な若人の果たすべき責任と義務）」を教育方針に掲げ、ESD に重なる様々な教育プログラムをこれまでも行ってきた。今年度もこれらを日常の活動、及び各学年での行事として種々それぞれの目的意識のもと以下のような活動を行った。

① 国際支援に関わる教育

ボランティア委員会を中心として「書き損じ葉書」、「文房具」「ペットボトルキャップ」収集を行った。

「書き損じはがき」はユネスコ協会連盟を通じ「カンボジア」に、また、「文房具」も上智大学のボランティアサークルとの連携で、「カンボジア」の子供支援をした。「ペットボトルキャップ」は換金のうえ「NPO 法人 世界の子供にワクチンを 日本委員会」に届け、それを通じて世界各国のワクチンを必要としている国の子供たちへの支援をしたこととなっている。

中学では、「給食委員会」で、「国連 WFP」での活動を調べたものを学内で紹介、2 年生の家庭科では「ハンガーパンケット」を行った。

それぞれの活動を通して生徒に貧困について考える良い機会となっている。

② 環境・平和・人権に関わる教育

中学2年生に於いて、「自己発見と共生の旅」に福島に出かけた。

ここでは、東日本大震災・放射能・「会津藩」の歴史・野口英世について、事前学習で学び、関心・問題意識と知識を得たうえで現地に赴いて実地検証する形とした。途上で大熊中学との交流も持つ機会が持てた。

帰校した後は、旅の集大成として、今まで気づかなかったが、改めて気づいた大切にしなければならない事を「私たちの什の掟」としてまとめ、明日への提言としてのプレゼンテーションを行った。

中学3年では、修学旅行で九州を訪れた。なかでも第2次世界大戦の「特攻隊」(知覧)・「原爆」(長崎)について、また、「水俣病」(水俣)についてもしっかり事前学習をおこなったうえで現地を訪れた。特攻隊というものを知り、原爆への認識も含め、戦争に対する見方・考え方が複数あることを生徒は学んだ。水俣では環境破壊の恐ろしさと人権を守ることの難しさを学ばせることができた。

③ 異文化理解・コミュニケーション能力の育成

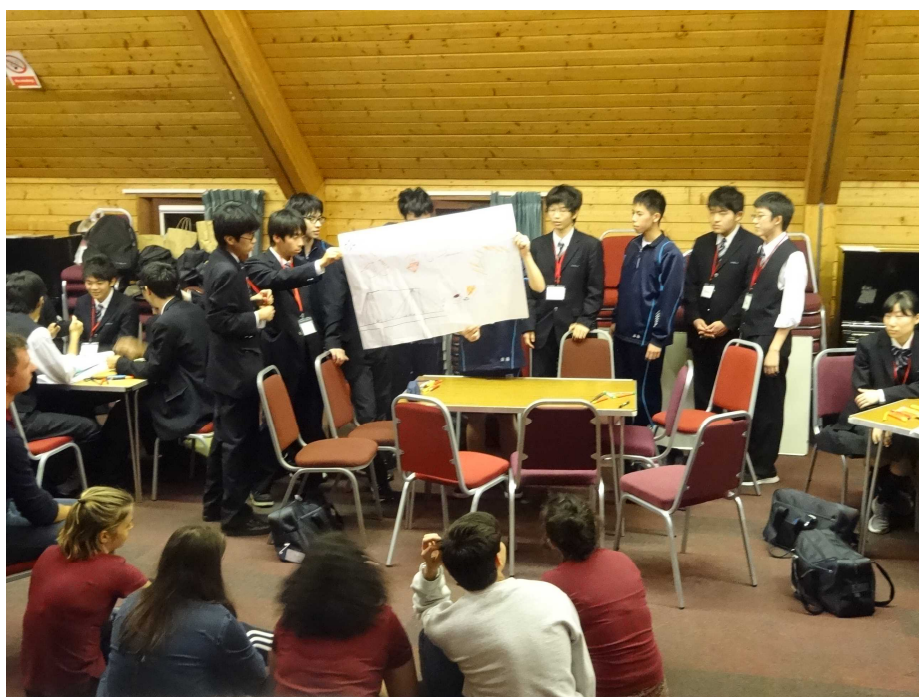
高校生の修学旅行に充当するものとして、1年生から2年になる春休みと秋の2班に分かれてイギリスへの語学研修を行った。「オックスフォード大学ハートフォードカレッジ」、「ラグビー校」に赴き、これらパブリックスクールを本拠地として1週間現地で生活。行った先では大学において「日本について」様々な面からそれぞれの担当のプレゼンをすることになっていた為、その準備を日本から行っていくことになっていた。生徒は改めて日本を見直す機会を得るとともに、現地ではイギリスの歴史や文化・文学等について学ぶことで、更に深く日本人としての自覚を持つことにつながったと思われる。



- ① ペットボトルキャップを換金していただくために学校に回収に来ていただき、キャップの入った袋を引き渡すボランティア委員の生徒。



① 中3 知覧 特攻隊についての説明を聞く。



② 高2 オクスフォード大学におけるプレゼン

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

○ 1. 環境	□ 2. エネルギー	○ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	○ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	○ 8. 人権・平和
○ 9. 健康・福祉	○ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	○ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="radio"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="radio"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="radio"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="radio"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="radio"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="radio"/> 1. 教科の時間	<input type="radio"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="radio"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

どの学年も教員がワークシートを作成し、生徒にはそれを使用させた。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ボランティア委員会で行っている活動以外は全て学年の行事に組み込まれている。従って、学年では、教科の力を借りることのできる場所は教科へ部分的に依頼し、担当してもらうことでより充実した指導ができるようになる。

その他は学年による指導となる為、ほぼ、「総合」及び「道徳」の時間を充てている。

内容については、行事ごとに目的がある為、それに従って担当が中心となり、内容を編んで学年会にたたき台を出す。それに対して充当可能時間全体からの時間の割り振り等も含め、あれこれ学年教員から様々に出される意見によって改善され、まとめられていくこととなる。ほぼそのような過程を経て、ワークシート作成と共に計画を完成させている。

③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

まず、指導部の一つ、「教育設計部」により、学校全体の教育内容を系統立て、またバランスをもって行事を各学年に配置している。各学年では、過去の学年から引継がれ、蓄積されてきている経験や情報を参考に次の学年で昇華できるようにして実施。また、資料と結果を反省事項と共に蓄積していく形である。

※チェック事項 1-4 に対応

④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

5 ※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとして認可を受けてから日が浅いため、まだ内部・外部共にその観点からの評価というまでには至っていないが、各行事毎には必ず終了後振り返りは行われる。その内容は各学年に配置されている設計部の教員を通じて次年度につながるようにしている。

⑤ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

これまで4年間校内で継続して行なってきた「ペットボトルキャップ」回収による「世界の子供にワクチンを 日本委員会」を通しての支援活動について、その間口を広げ、門戸を学外にも開くことを決定した。近隣の商店街及び町会に向けて着手し始めたところである。

⑥学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ボランティア活動を志す若者同士の兄弟姉妹的なスタンスで、上智大学のボランティアサークル「Ceek」の学生さん達との交流、連携が3年前より続いている。

「Ceek」では、毎年夏休みにカンボジアへボランティアツアーに行かれる為、現地にて使用できる文房具等を1年かけて本校校生徒が集めた物を持参し、届けてもらっている。また、文化祭にはボランティア委員会のブースにてその報告会を行っていただき、生徒は現地の子供たちの様子を知り、自分たちの恵まれていることに改めて気づくこととなっている。校内で行う「ボランティア アワード」でも、ボランティア活動に関するプレゼンをしていただいた。

⑦国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

30 年 1 月、ユネスコアジア文化センターの仲立ちにより、「韓国教員招聘プログラム」にて韓国の 30 余名の先生方に御来校いただいた。

韓国の先生方の見学・質問・意見交換などの交流の場面での真摯で熱心な様子にまず、この機会が持ててよかったと思った。また、学校・教員としての内容はさることながら、近い国でありながら、意外に互いが互いの国の事を知らなかったのだ、ということに気づく場面にも遭遇できた。偶然耳に入った「日本の『おもてなし』を受けた」という感想の言葉に、これこそ「異文化理解」であり、大事なことを受け取ってもらえたと感じることができた。また、生徒が直接意見交換の場に入って、素の生徒を見ていただけたことも相互理解に良い印象・影響があったように思えた。もちろん生徒自身にとっても貴重な体験となったに相違ない。

⑧ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

--

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

- ・地域の推進拠点となる為の最初のアプローチとして着手し始めた「学校の近隣へのキャップ回収への働きかけ」を本格化し、その接点を通して、まずは近隣の住民の方々にも「ユネスコ」への関心が喚起できれば、と考えている。
- ・校内に於いて各学年に割り振られ、実行されてきている活動内容（行事関係）を整理し、特に中学に於いては本校独自の「中学道徳」の教科書としてまとめる。